

# 横須賀水交会

【潜水艦隊司令官挨拶】

海将 伍賀 祥裕



令和五年八月二十九日をもって第二十六代潜水艦隊司令官を拝命しました伍賀です。

横須賀水交会の皆様には、平素から、隊員並びに家族に対して様々な御支援・御協力を賜り、心から御礼申し上げます。

私自身にとりましては、どの任地・配置も、隊員に支えられ、支援者の方々に親切にしていたいただいたことから、思い出深いのですが、初任幹部として「しらね」

乗組となつて以来、数次勤務した横須賀において、潜水艦隊司令官として勤務できますことを真に光栄に思っております。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後、最も厳しく複雑な状況といえます。ロシアによるウクライナ侵略をはじめ、力による一方的な現状変更やその試みは既存の国際秩序に対する深刻な挑戦となっており、我が国周辺では、核・ミサイル戦力を含む軍備増強が急速に進み、これらの圧力が高まっています。かかる情勢を踏まえ、令和四年末、戦略三文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略及び防衛力整備計画)が策定されました。

この内、国家防衛戦略では、防衛目標を達成するための第一のアプローチとして「我が国自身の防衛体制の強化」が掲げられています。潜水艦部隊には、最

発行 令和6年4月22日(月)  
編集 横須賀水交会事務局

前線で隠密裡に作戦できる戦力としての貢献が従前にも増して期待されています。このため、潜水艦部隊は、その期待に応えるべく、二十二隻体制を完成させるとともに、そうりゆう型AIP潜水艦、たいげい型リチウムイオン電池潜水艦、試験潜水艦の戦力化等を漸次進めてきたところです。今後は、スタンド・オフ攻撃能力や無人アセットの導入等にも取り組んで参ります。その一方、厳しい募集環境下、適性ある有能な人物を選抜・養成し、何時如何なる任務にも即応できる高い練度を維持していかなくてはなりません。生活環境の厳しい潜水艦で堅実に持ち場を守り、所望の能力を發揮できる人材を見出し、育成し続けることは、少子化社会の下、大切に育てられた若者を対象とするだけに容易ではありませんが、潜水艦隊にとって、引き続き、重

要な課題の一つです。(次頁へ)

## 横須賀水交会主要行事予定

令和6年11月までの主要行事予定

は、次のとおりです。なお、最新の情報には横須賀水交会ホームページ(<http://y-suihoukai.daa.jp/>)の御確認下さい。

### 1 馬門山海軍墓地墓前祭

(1) 期日 5月11日(土)

(2) 場所 馬門山海軍墓地

### 2 海軍の碑記念行事

(1) 期日 5月27日(月)

(2) 場所 ヴェルニー公園

### 3 第44回ゴルフコンペ

(1) 期日 6月3日(月)

(2) 場所 南総ヒルズ・カントリークラブ

### 4 6年度総会・講演会・懇親会

(1) 期日 6月6日(木)

(2) 場所 横須賀商工会議所

### 5 靖国神社月例参拝

(1) 期日 6月20日(木)

(2) 場所 靖国神社等

### 6 横須賀水交会防衛講座

(1) 期日 7月上旬

(2) 場所 後日連絡

ところで、国家防衛戦略では、防衛目標を実現するための第二のアプローチとして「日米同盟の共同抑止・対処」が掲げられています。その視点でも潜水艦部隊には重要な役割が期待されています。これまでも、日米潜水艦部隊は、平素からの訓練や諸活動に止まらず、様々な分野において、協力、連係を進めて参りましたが、一層拡大・深化させていかなければなりません。

さらに、令和六年度末には、統合幕僚監部の改編や常設の統合部隊司令部の新編をはじめとする統合運用態勢／体制の更なる強化が図られます。潜水艦隊には、新たな体制下、特性等について他の軍種／兵種の仲間にも理解を得ながら、作戦能力を發揮し、全般の諸活動に寄与していくことが一層求められます。

これらを総合すれば、我々、潜水艦隊は、その伝統を継承、改善しつつ、軍事情勢、科学技術、組織、社会、構成員の変容に応じ、改めるべき点は、意識や考え方を換え、要領や方法等を修正し、態勢を変革していく必要があります。

私は、以上申し述べた情勢認識を踏まえ、着任以来、「任務完遂・総員帰還」を勤務目標として掲げ、潜水艦隊の使命を自覚し、情熱をもって、誠実に職務を履行するよう、自らに課すとともに、総員に要望しています。

令和六年度も、右目標を達成すべく、一致団結、全力を尽くす所存ですので、横須賀水交會の皆様には、尚一層の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、横須賀水交會のますます御発展、会員の皆様の御健康・御多幸を祈念申し上げます。御挨拶の結びとさせていただきます。

### 【特別寄稿】

#### 横須賀のギャラリー文庫

平間博彦

(横須賀水交會会員)

父(平間洋一)の没後から3年、

横須賀市西部の長井というのどかな漁村に、ギャラリー書庫を作りました。



父は横須賀出身の防大一期生、もともとは左翼がかった外交官志望でしたが、学費が無料というあまり自慢できない理由で防大に進みました。その後、海上自衛官として奉職し、海将補で退官、防衛大学校教授、図書館長等を務めた後は、各種学会、研究会

での講演・執筆活動に加え、大和ミュージアム委員、ドラマ「坂の上の雲」の歴史考証等、歴史や地政学に関する啓発・啓蒙活動に生涯を捧げました。

私は横須賀をはじめ基地の街で、自衛官としての父の背中を見ながら育ちました。大学卒業後は民間企業に進み、海外勤務が長かったため、父と私の接点が復活したのは、父が亡くなる3年ほど前です。そのころ父は、入退院を繰り返し、私は介護に明け暮れました。当時の父は、入院していた横須賀自衛隊病院から喫煙のために抜け出し、看護師さんから「脱走兵!」と追いかけられたり、医師に止められている食べ物、作業員を使って「密輸」したり、決して模範的な入院患者ではありませんでした。しかし、父は誰に対しても人懐っこく、相手が医師や看護師であれ、お見舞いの後輩や元部下の方であれ、相手に良かれと思うことを、無私の気持ちでやるうとしていたことは、父に付き添う中でよく感じられました。

父の葬儀は、コロナ禍中でもあり、ごく小規模に行いました。それでも遠方から通夜にお越しただいたり、「父との約束です」と出棺時にサイドパイプを吹きに来てくださる方がいたり、生前父がいかにも多くの方々と関わり、愛され、支えたり支えられたりしてきたのかを実感しました。



その後、私は遺された膨大な書籍や資料を整理する中で、父

の遺志を汲み、お世話になった方、歴史の研究や、地域の振興を目指す方等に活用いただく方法はないだろうか、と考えた結果、縁ある横須賀で蔵書や資料の保存・公開を行うことにしました。ガレージを改造した書庫には近代史、外交史、軍事史、特に海軍や海上自衛隊、横須賀郷土史に関連する書籍・雑誌・論文・資料などを収蔵しています。また、長井には、終戦後教育者として余生を送った井上成美海軍大将の教え子の方々（井上成美氏を語り継ぐ会）もいらつしやいます。そのご縁もあり、井上塾の英語教材などもあわせて保存・公開に協力させて頂いております。ただ、仕事の合間を縫った不定期の公開ですので、ご訪問に際しては事前のアポイントをお願いしております。書籍閲覧の帰りに長井漁港周辺を散策していただくのもよろしいかと思えます。私自身、軍事史は専門ではありませんが、父が晩年考えていた、故郷横須賀・三浦をより元気に活性化したい思いは引き継

いでいますので、どんな形でお役に立てるか、これからも考えていきたいと思っております。



お問い合わせ先：e-mail：

[garageyokosukawest@gmail.com](mailto:garageyokosukawest@gmail.com)

ail.com

URL：[https://machi-](https://machi-library.org/where/detail/)

[library.org/where/detail/](https://machi-library.org/where/detail/)

8853/

### 【横須賀散歩】

火 猿

「横須賀重砲兵聯隊」営門  
横須賀は海軍の街ですが、陸軍も東京湾防備の為に、明治13年から観音崎や市内各所に砲台を築き、明治23年には、衣笠から程近い不入斗に「要塞砲兵第一聯隊／後に横須賀重砲兵聯隊」を置きました。その営門が坂本中学及び桜小学校の正門として今でも使用されています。



なお、同じ敷地にある不入斗中学は、横須賀のアイドル、山

口百恵ちゃんが通った学校です。

「七釜(しつかま)トンネル」

JR田浦駅では、三つの時代に亘って掘られたトンネルを見ることが出来ます。「鉄っちゃん」の間では有名だそうです。



下り線中央は、横須賀線開通の明治22年に完成し、その後電化により大幅に改造されました。右の煉瓦造りは、大正13年の複線化により増設されたものです。



残る左は、昭和18年に海軍の要請で造られた軍需輸送用の引き込み線で、今は使用されていませんが、私が最初の横須賀勤務の頃には、未だディーゼル機関車が走っていました。

【活動記録】

1 護衛艦「いずも」体験航海

令和5年10月16日(月)、前日の荒天が嘘(うそ)のような澄み渡る秋晴れの中、護衛艦「いずも」

による体験航海が行われました。

護衛艦「いずも」は、平成27(2015)年3月25日に就役、基準排水量19,500ton、全長248m、機関はガスタービン4基112,000馬力で、海上自衛隊最大の護衛艦である「いずも」型一番艦です。

今回の体験航海は、吉倉港と横須賀港外北の横浜金沢沖を往復するコースで実施されました。



乗員家族のほか、地方協力本部による入隊予定者や自衛隊協力団体等、総計1,000名余り

の方々に乗艦されたそうです。横須賀水交會からは、永田会長以下6名の常務幹事が有志会員28名に付き添い総勢34名で参加しました。

一行は横須賀地方総監部正門付近で集合した後、総監部広報推進室の隊員2名に引率され、いよいよ乗艦となりました。

舷門では「いずも」艦長がお声を掛けてくださり、乗艦者の方々を温かく迎えてくださいました。乗艦中の留意事項をお伝えした後は自由行動となり、三々五々、艦内見学へと移りました。格納庫を始めとする艦内各所を見学する方もいらつしやいましたが、多くの方は第1昇降機(エレベーター)に乗り、飛行甲板へと向かっておりました。さすがに全長248mの飛行甲板は広大であり、エレベーターが飛行甲板に到着すると、あちらこちらから感嘆の声が上がっていました。

0900 3隻のタグボートにより逸見岸壁から引き出された「いずも」は、その巨大な船体

をゆっくりと左へ回頭し、横須賀港外へと向かいました。

乗員による「いずも」や海上自衛隊、はたまた東京湾の説明に、会員は興味深く耳を傾けておりました。

また、最近話題となつているF-35Bが発着艦するための飛行甲板耐熱塗装などの説明には、真剣に聞き入っていました。



「いずも」は、横須賀港外を航行し、浦賀水道の手前で右回頭で反転し、港内へと向かいました。

途中、真っ白い帽子を被つたような雪化粧をした富士山も遠望でき、雄大な景観を堪能できました。

また、米海軍横須賀基地内には、停泊中の米艦艇に混じり、前日に一般公開を行つていた「くまの」の雄姿を拝むこともでき、乗艦者は短いながらも有意義な時間を過ごしました。

入港後は、艦首付近での記念撮影のち解散となり、一部の方は厚生センター売店へ向い、記念の品を買い求めていました。短い時間ではありましたが、「いずも」を通じて海上自衛隊の活動の一端を垣間(かいま)見ていただき、ご理解を深められる貴重な体験をされたのではないのでしょうか。

乗艦した会員の皆様におかれましては、今後も水交會の活動目的の一つである「海上自衛隊が行う諸活動への協力」を惜しまないことを胸に秘め、帰宅の途に就かれたものと拝察いたします。多忙な中にもかかわらず、本

体験航海を計画実施していただいた、海上自衛隊各部の皆様にご感謝するとともに、さらなるご活躍とご健勝をお祈りしております。

(檜森 晃治 幹事 記)

## 2 掃海艇「のうみ」命名・進水式

進水式

令和5年10月24日(火)、ジャパンマリニューナイテッド株式会社 横浜事業所鶴見工場において、令和2年度計画掃海艇の命名・進水式が伊藤 弘 横須賀地方総監により執り行われました。この掃海艇は、基準排水量690トン、長さ67m、幅11mで、船体にGFRP(ガラス繊維強化プラスチック)を使用した「あわじ」型掃海艇の4番艦です。

式典は、横須賀音楽隊の演奏による国歌斉唱の後、防衛省を代表して松本 尚 防衛大臣政務官が『本艦を「のうみ」と命名する。』と自衛艦命名書を読み上げました。



(艦名は広島県江田島の対岸に位置する「東能美島」「西能美島」の総称に由来)

引き続き、松本政務官によって支綱が切断されるとシャンプンが船体に当たり砕け、くす玉が割れて紙吹雪が舞い、横須賀音楽隊による行進曲「軍艦」の演奏が響く中、「のうみ」はゆっくりと船台を滑り降り、その雄姿を海面に浮かべました。

「のうみ」は令和7年春の就役に向け、中嶋 誠 艦装員長他、選抜された艦装員と防衛省及び建造所関係者により、艦装が進

められることとなります。  
式典参加者は、「のうみ」の進水を祝し、今後の艤装が順調に進み、その完成を祈るとともに、自衛艦旗がへんぽんと翻る就役の姿を思い描きつつ、式場を後にしました。

(一瀬 良文 事務局長 記)

### 3 横須賀自衛隊記念日祝賀会

令和5年11月2日(木) 17時から、横須賀地方総監部において自衛隊記念日祝賀会が横須賀地方総監部厚生センターにおいて開催されました。

本会は、横須賀地方総監、横須賀防衛協会、横須賀水交會会長が共催し、横須賀地区に在籍する陸・海・空自衛隊の部隊指揮官・先任伍長、横須賀市長等を招いて自衛隊記念日を交歓するとともに、自衛隊を激励し、併せて、各団体、会員相互の親睦を図ることを目的に毎年実施しているものです。

当日は、夏を思わせるような気温でしたが、湿度は低く気持ちの良い風が吹いており、約300名を超える関係者が参加し、横須賀水交會からは14名が参加するとともに、7名が受付業務の支援を行いました。

御来賓として、鈴木敦 衆議院議員、水野素子 参議院議員、上地克明 横須賀市長、ほか多数の方々に参加されました。

途中で、齋藤 聡 自衛艦隊司令官からサプライズでカウント・パートであるカール・O・トーマス司令官が先日、第7艦隊司令官としての任期最長記録を達成した事、並びに6歳の誕生日を迎えられた事の紹介がありました。

日本では、60歳、還暦を迎えた際には赤いちやんちゃんを着るといふ事で、「トーマス司令官が赤いちやんちゃんを着て隣には奥様という似顔絵」がプレゼントされました。

その後、参加者全員から横須賀音楽隊の演奏と共にベースデューソングが贈られました。

国歌斉唱に引き続き、共催団体を代表して伊藤 弘 横須賀地方総監から、我が国を取り巻く内外の諸情勢は極めて厳しい状況にあり、また、自衛官募集も極めて厳しい状況にあるという現状説明を含めた挨拶がありました。

引き続き、平松 廣司 横須賀防衛協会会長からの挨拶がありました。

恒例の鏡開きでは、2つの四斗樽が参加者全員の「ヨイシヨ！」の掛け声に合せ見事に開かれ、最高の盛り上がりの時を迎えました。

その後、永田 美喜夫 横須賀水交會の発声により乾杯が行われ、懇談の時間となりました。

会場内のあちらこちらで、陸・海・空自衛官、来賓、自衛隊OB、各団体会員等が和気藹々と懇談する姿が見受けられ、目的の一つである親睦を十分に図ることができたものと考えます。

心温まるもてなしの中での楽しい時間はあっという間に過ぎ、横須賀自衛隊記念日祝賀会はお

開きとなりました。横須賀は、3自衛隊統合を代表する街であり日米同盟及びその他の国との安全保障協力の拠点ともなっています。

これを支える横須賀防衛団体の存在と責任の重さに思いを新たにしたい一日でした。

(石井 順 幹事 記)

### 4 砕氷艦「しらせ」出国行事

令和5年11月10日(金)、砕氷艦「しらせ」(艦長 齋藤 一城 1等海佐)は、乗員約180名を乗せ、第65次南極地域観測協力のため、横須賀逸見岸壁を出港し、南極昭和基地へ向け151日間の航海に出ました。

この日の横須賀は小雨模様のお天気となりましたが、横須賀音楽隊による「上を向いて歩こう」や「海の声」などの演奏の中、約600名の乗員家族や関係者が早朝から見送りに訪れていました。横須賀水交會からは、永田会長以下16名の会員が参加しました。

出国行事は10時30分から始まり、酒井良海上幕僚長に対する栄誉礼ののち、青木誠統合幕僚監部総務部長が、統合幕僚長の訓示を代読し、続いて、酒井海幕長が壮行の辞で「5ヶ月間に及ぶ任務活動中、美しくも過酷な気象環境による様々な困難が立ちはだかると思われますが、これまで積み上げたシーマシップを遺憾なく発揮するとともに観測隊と一致団結し任務を完遂することを期待します。」と激励し、最後に齋藤艦長の「砕



氷艦しらせ南極に向け出港します」の報告で出国行事を終えました。

横須賀音楽隊が「宇宙戦艦ヤマト」のテーマ及び行進曲「軍艦」を奏でる中、「しらせ」は家族との別れを惜しまれつつ、岸壁を離れ出港しました。

「しらせ」は、11月25日から30日までオーストラリアのフリーマントルに寄港し、第65次観測隊員が乗艦します。

今次観測協力では、往路75名、復路79名の人員輸送のほか、約1,200トンの物資輸送及び各種支援を行いました。

(川上雅永幹事 記)

## 5 第43回横須賀水交会主催

ゴルフコンペ

令和5年11月15日(水)、寒暖の差が例年より深まる秋、当日は朝からゴルフ日和の晴天に恵まれ、前回同様千葉房総半島の南総ヒルズカントリークラブにて43回目の横須賀水交会主催ゴ

ルフコンペが開催されました。



参加者は前回と同等で1名の女性を含む21名の参加を得ました。

スタート時は若干の冷え込みはあったものの適度の日差しにも恵まれ気温も回復、まさに秋のゴルフ日和の天候に恵まれ終始和気あいあいと親睦を深めることができました。

プレイは、東、西、中それぞれコースに2組ずつで、各組08:24にスタート、スコアを争うプレイとは別に設定された各組ドラコン2ホール、ニアピン

を4ホールの争奪戦で特に際立ったのは河合政博氏がニアピン2個、ドラコン1個、また曾我英一氏がニアピン2個とそれぞれ前回に引き続き大活躍でした。

最終的なダブルプリア方式による成績は、關藤雅彦氏が、グロス98、ハンデキヤップ24.0、ネット74.0で初優勝、2位は堀内久蔵氏(111、36.0、75.0)が、そして3位には会見裕氏(99、24.0、75.0)、ベストグロス賞は、曾我英一氏で89という結果でした。

優勝者コメントでは、「昨年6月、定年退官し、水交会に入会させて頂き、総会や体験航海などの行事を通じて、横須賀水交会ゴルフコンペがあることを知り参加させて頂きました。今回で2回目の参加となりましたが、参加される方にお会いすると、かつて勤務をご一緒させて頂いた多くの先輩方の元気な顔を拝見し、楽しくお話をさせて頂く機会でもあり、とても楽しく過ごさせて頂きました。現役時代、重要な役職にあった方々が

気さくに話をして下さりプレイ中も過分なお気遣いをして頂き、水交會という会がとてもよい会であることを改めて実感させて頂きました。このような海自OBの会に多くの方々が参加していただけるよう、私もOBやOB予定者にお声かけをしていこうと思っております。ご参加の皆さま、本日ありがとうございました。次回も頑張ります。」との素晴らしいコメントを頂きました。

今回もプレイ終了後のパーティーも含め、コンペは終始和気あいあいと推移し親睦を深めることができました。

今後とも会員の親睦を目的とし、水交會会員のみなならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交會の活動に理解を深めていただければと考えております。次回の開催は、来年6月頃を予定しております。奮ってのご参加よろしく願います。

(迫幸一郎 幹事 記)

## 6 横須賀水交會幹事会

令和5年12月15日(金)12月とは思えない汗ばむ陽気の中、横須賀市福祉会館において幹事会が行われ顧問以下約30名が参加しました。

実施行事の結果(横須賀水交會第1回防衛講座、護衛艦「いずも」体験航海、ゴルフコンペ、中級管理講習、その他共催及び参加・参列した行事)及び実施予定の行事(令和6年横須賀防衛団体新年賀詞交歓会、部隊研修、横須賀水交會防衛講座、靖国神社月例参拝、4/四半期の行事予定報告)について、報告、討議され承認を得ました。

會議終了後、場所を「メルキュールホテル横須賀」の眺めの良い18階に移し、忘年会を兼ねた横須賀水交會幹事会懇親会が開催されました。

来賓として海上自衛隊から伊藤 弘 横須賀地方総監を始め、川村 伸一 自衛艦隊司令部幕僚長、横須賀地方総監部 管理部長

及び横須賀地方隊 前任伍長等が、国会議員関係では小泉進次郎 衆議院議員代理、山本ともひろ 衆議院議員代理 及び佐藤 正久 参議院議員代理が、横須賀市からは田中 茂 横須賀副市長、池田 徳重 横須賀市議会議員の出席を得ました。

内嶋総務幹事の司会の下、懇親会が始まりました。

今回は、参加者拡大という事もあり、横須賀水交會に入会したばかりまたは、紹介を得てもなく入会手続きをするという一般会員(有志会員)等の方々も参加して頂き、約50名の参加者でした。

永田 横須賀水交會会長から挨拶として役員の尽力により、ほとんどの事業が成功裏に終わらせることができた事への慰労、懇親会参加者への御支援、御尽力へのお礼の言葉がありました。来賓を代表して2名の方から御挨拶を頂きました。

田中 副市長の代読で上地克明市長の「横須賀市といたしましても従前より海上自衛隊を支

えておられる皆様と共に海上自衛隊のためにできる限りの支援をしてまいる所存です。」という祝辞を頂きました。

引き続き、伊藤総監からは、横須賀水交會からの各支援のお礼、自衛官募集困難への対策としてのロジステイクス基盤システムの紹介、横須賀地方隊前任伍長交代の紹介がありました。

祝電の紹介の後、白川久美一 会員及び長崎顧問からのご芳志の紹介がありました。

川村自艦隊幕僚長の発声で声高らかに乾杯が行われ、懇談に入りました。

懇談の途中、この秋瑞宝中綬章を受賞した永田会長に対し、吉田かをり及び鳥居真紀両幹事が会を代表してお祝いの花束を贈呈しました。これはほとんどの出席者にとってもサプライズでしたので会場は大いに盛り上がりしました。

今年1年の出来事を振り返り、また、来年の抱負を胸に共に杯を交わし和気あいあいの内に、山本 好人 横須賀地方隊前任伍

7

第45次派遣海賊対処行動

水上部隊帰国行事

(石井順 幹事 記)



横須賀水交会 令和5年 懇談会 令和5年12月15日 メルキュールホテル

長の発声により中締め乾杯となりました。  
「何よりも、来年も皆様の顔を見られること」という笑いを誘う内容もあり、最後まで盛り上がった懇親会は、名残惜しくも閉会となりました。

令和5年12月16日(土) 初夏を思わせるような小春日和の中、ソマリア沖アデン湾周辺海域において第45次海賊対処活動に従事していた護衛艦「いかづち」(艦長 田中 宏明 2等海佐)乗組員約200名(海上保安官8名が同乗)の帰国行事が実施されました。  
同艦は、本年6月に横須賀を出港し、現地での任務を完遂し帰国したものです。



伊藤 弘 横須賀地方総監執行による帰国行事は、統合幕僚監

部 総務部長、日本船主協会関係者、上地 克明 横須賀市長、齋藤 聡 自衛艦隊司令官ほか各部隊指揮官、前任伍長、隊員、家族・友人など多くの方々列席され、横須賀水交会からは永田会長ほか多数の会員が参加しました。

統合幕僚長代理 青木 誠 統合幕僚監部 総務部長に対する艦長の帰国報告の後、自衛艦隊司令官訓示、来賓祝辞、来賓紹介と行事は進められました。  
齋藤司令官は、訓示の中で、

「諸官の任務に臨むひたむきな姿勢は、世間一般に知られることはなかったが、私は、諸官こそ『名もなきヒーロー』であると確信し、指揮官として心から誇りに思う。」と述べられるとともに、参列されたご家族の方へ体の向きを変えられ、「今回」の任務達成は、まさに皆様方の温かいご支援と深いご理解の賜でもあります。

ご家族ご友人のお力添えが、我々の心の大きな原動力であり支えとなっており、この場をお

借りして、心より御礼申し上げます。」と仰られました。  
そして、「諸官が本行動を通じて示した多大な努力と献身に対し、改めて敬意を表するとともに、今後なお一層の活躍を期待し帰国に際しての訓示とす。」と結ばれました。

続いて、海上保安庁 彼末 浩明 警備救難部長が「ソマリア沖アデン湾において展開される我が国の海賊対処行動は、平成21年3月に第1次隊が派遣されて以来これまで14年の長きにわたり継続されており、現在も第46次隊の皆さんが任務を遂行されており、いつ何時海賊事案が発生するかわからない高い緊張状態での任務は、想像を絶する苦労があったことと思えます。」この度の任務完遂は、派遣された隊員のご家族のサポートがあればこそだということも忘れてはなりません。任務に派遣された隊員のみならず、ご家族の皆様もまた、この派遣の功労者であります。」と祝辞を述べられました。

引き続き、参列されたご来賓の紹介、祝電の披露等が行われ、行事は沼義文海曹長の進行により、功労のあつた各分隊1名および海上保安官1名に対し司令官から熱い握手とともにコインが渡され、自衛艦隊先任伍長北口武史海曹長やご家族ご友人も一緒に記念写真を撮影しました。



整齊と整列した乗員の逞しく凛々しい姿は、任務を完遂した者としての誇りと自信に満ち溢れており、頼もしい限りであり

ました。

海賊対処行動は長期間にわたる任務であり、厳しい環境条件のもとでの緊張は計り知れないものがあります。

国際的な責務を果たし国益に寄与した指揮官及び乗員各位に対して、深い感謝と敬意を表します。乗組員の皆様には短期間かとは思いますが、休養されて英気を養っていただきたいと思

(檜森 晃治 幹事 記)

## 8 靖國神社等月例参拝

令和6年2月15日(木)、靖國神社月例参拝等を実施いたしました。

当日は、2月にしては、暖かい日和になりました。参拝参加者は、兵74期会、慰霊顕彰委員会、海自クラス代表、横須賀水交會から43名の参加をいただきました。

参集殿におきまして、靖國神社 権宮司 村田信昌様からお

話をいただきました。お話は、「桜のつぼみもだいぶ膨らんできていて、3月17日ごろ開花の予報」のことや、「1月を通じ靖國神社のお参りが非常に多くなり、特に外国人の参拝が多く、参拝と遊就館にもかなりの方のお入りになつていただいた」とのことでした。本殿に移動して参拝を滞りなく終了いたしました。



その後、千鳥ヶ淵戦没者墓苑へ移動し、現在37万余の柱が安置されている六角堂にて献花をいたしました。

そのあと、前屋の広場で、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 理事長 榊枝宗男様からお話をいただきました。陸自現役時代の榊様と海自との関係の思い出など話されたあと、「新聞『千鳥ヶ淵』1月号」に関してお話しがあり、今野 泰樹 練習艦隊司令官の挨拶を掲載している旨の説明がありました。

そこで解散となり、直会参加者の皆様は、新橋に移動しました。参加者は永田会長以下11名で、慰霊顕彰委員会から参加されました鍛冶様の献杯で始まり、皆さんの近況報告を聞きながら和やかな歓談の下、永田会長の挨拶で終了いたしました。

今回は、6月に開催予定です。月例参拝への参加及び初回参加者のお誘い、皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

(大野 慶二 幹事 記)

## 9 第2回横須賀水交會

防衛講座を開催

令和6年3月2日(土)、ヴェルク横須賀第3研修室(横須賀市日の出町)において、「第2回 横須賀水交會防衛講座」が開催され、会員等22名が参加しました。



この日の講師は、宅間 秀記 横須賀水交會常務幹事(元在サウジアラビア王国防衛駐在官)で、中東で3年間の勤務経験のある講師から、「防衛駐在官のおしごと」サウジアラビア勤務から」と題して講話していた

いただきました。

講話は2部で構成され、まず防衛駐在官の待遇や業務内容及び赴任先での生活について紹介の後、イスラム教の宗主国であるサウジアラビア王国の特徴や実情、そして近年の社会改革に加えパレスチナ中東和平問題についても触れられました。

最後に語られた「国際問題解決(共存)のためには、多様性を理解し、互いを認め合うことが重要」との所見は、講師の体験に裏付けされた説得力のある言葉でした。

終了後は、引き続き同じ会場でお菓子を摘みながらノンアルコールでの懇談会が行われ、矢継ぎ早の質問に参加者の興味の深さが感じられました。

(山岡 鉄司 幹事 記)

### 10 第41掃海隊廃止

#### ・解隊行事

令和6年3月10日(日)午前、横須賀吉倉岸壁において、

第41掃海隊(えのしま、ちちじま)廃止・解隊行事が伊藤弘横須賀地方総監により執り行われました。

行事は、伊藤総監から廃止・解隊の辞が述べられ、次いで来賓を代表し田中 茂 横須賀副市長から挨拶がありました。



そして、隊名看板返納及び森田耕一郎 第41掃海隊司令の挨拶の後、横須賀音楽隊の演奏に合わせ乗組員が掃海艇に乗艇し、各艇は次の配備先(「えのしま」(艇長 福士 明永 3等

海佐)は第45掃海隊、「ちちじま」(艇長 田中 祐紀 1等海尉)は第1掃海隊)の母港に向け、それぞれ出港しました。



早朝の風も治まって春の日差しに恵まれ、岸壁には、齋藤 聡 自衛艦隊司令官をはじめ横須賀所在の各級指揮官等、そして、100名を超える来賓や家族の皆さまが参列し、廃止・解隊を惜しむとともに新たな所属での活躍と健闘を祈りました。

また、横須賀水交會からも松

下泰士幹事長を含め22名が参列しました。

特に掃海部隊からは多くの隊員が集まり、海上では吉倉岸壁の陰から突如現れた6隻の処分艇が函館に向け出港した「えのしま」に接近し、高速走行を見せつけて掃海部隊らしく壮行を締めくくりました。

(山岡 鉄司 幹事 記)

【お知らせ】

横須賀水交会 全会員用

メーリングストについて

「メールによる 会員の皆様への行事等のご案内」を行っております。既に、多くの会員の方には登録いただいておりますが、最近、コロナ後の水交会活動の活性化に伴い、メールでの連絡を更に有効活用しようと考えています。特に、体験航海や艦艇の出入港を伴う行事においては、当日の気候により時間や場所が変更になった場合、横須賀水交

会からタイムリーにご連絡させていただきます。また、お問い合わせいただくこともできます。

つきましては、メーリングリストへの登録を希望される方は次の要領で「登録」をお願いいたします。

① 登録用アドレス

memberlist\_regist@y-suikokai.sakura.ne.jp

② 登録内容

(例)

(1) 氏名・海尾護

(2) 会員番号・0174183

(3) メールアドレス

umiomamor@gmail.com

※登録アドレスは、お一人につき1アドレスとさせていただきます。何かご不明な点がございましたら、登録アドレスへご一報ください。以上、よろしくお願いたします。

(檜森 晃治 幹事 記)

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

第41回危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章 新井務

瑞宝单光章 佐藤 正人

令和5年秋の叙勲者

瑞宝中綬章 永田 美喜夫

瑞宝中綬章 榎原 伸一

瑞宝小綬章 岩永 則幸

瑞宝小綬章 岩渕 秀樹

(一瀬 良文 事務局長 記)

訃報

前紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

八木 和俊 (9月19日)

(一瀬 良文 事務局長 記)

新(編)入会員

令和5年10月〜令和6年2月

次の方々が横須賀水交会に新

たに入会(編入)されました。(敬称略)

編入 富田 清浩(87幹候)、

井上 司(84幹候)、八木 篤志(有

志)、神津 弥栄彦(幹予56)、野

瀬 靖子(93幹候)

入会

岩崎 英俊(87幹候)、関 秀之(横教252)、古川 雅啓(有志)、

齋藤 和輝(有志)、枝 聡子(有

志)、齋藤 小雪(有志)、鈴木

英介(有志)、高木 里鶴子(有

志)、齋藤 信一(有志)、吉田

真理子(有志)、田中 悠樹(有

志)、櫻井 美智子(有志)、吉

永 憲史(部内1)、田村 久幸(89

幹候)、乾 悦久(87幹候)、久

我 和也(有志)、石戸 谷 惠美子

(有志)、飯田 信夫(有志)、

岡崎 一郎(有志)、内藤 香織(有

志)、齋藤 大志(有志)、高田

啓 一郎(有志)、中澤 光弘(有

志)

(桂 眞彦 幹事 記)